

# 教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)  
 予約購読料 1年分 円共 3,962円  
 紙代のみ 3,080円  
 振替 00140-9-145275  
 本紙を購読ご希望の方は、前金を  
 そえて、お近くのキリスト教書店  
 へお申し込み下さい。  
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
 FAX03(3207)3918  
 URL http://uccj.org  
 発行人 網中彰子  
 編集主筆 米山恭平  
 印刷所 株式会社きかんし

## 第44回日本基督教団総会

◎日程 2026年12月9日(水)～11日(金)  
 ◎場所 立正佼成会法輪閣大ホール  
 (東京都杉並区和田2-8-36)

## 第43総会期 第6回

# 常議員会

### 「口語式文」の位置付けを確認する議案、提出を見送り

第6回常議員会が2月2～3日、教団会議室にて全常議員出席のもとで開催された。冒頭、傍聴者の承認に際して資料の扱い等、傍聴者の責任を明確にするよう要望が出た。

書記報告の中で黒田若雄書記は「洗礼式執行の指針」についての第5回常議員会での協議内容を三役が信仰職制委員会に陪席して報告したこと、2027年2月より教団が同宗連の議長教団の任を受けるために岸憲秀常議員を同宗連事務局長に選任したこと等を述べた。さらに口語式文に関する議案の提出について触れた。それによると第1回常任常議員会で「口語式文が教団総会で承認された式文であり、教団の礼拝や諸式で用いる式文の基準であることを確認する議案」を三役として常議員会に提出することを提案したが過去の教団総会の議案や議事録等を調べたところ、信仰職制委員会による式文の口語化にかんする「報告の承認だったことが判明。さらなる確認が必要となり提出を見送る旨が報告された。

これに対する「口語式文が総会で決議されていないと確認したということか」という質問に、雲

然俊美議長は「教団新報に式文の口語化についての連載記事を確認した。基となっている文語式文の総会承認について確認が必要」と答えた。

総幹事報告で、網中彰子総幹事は24年度の各教会・伝道所の教勢および財務状況の集計が終了したことを報告。現任陪餐会員数が2585名減の6万6520名である一方、不在会員や未陪餐会員を合わせた信徒総数は9万4943名となった。再度の教会へのかわりを促すべき人がいる可能性を述べた。

続いて奥羽教区より、謝恩日献金の実態と大きくかけ離れた目標額(1億1千万円)の見直しを求める意見と提案が年金局に出されたことについて、中川義幸年金局理事長が応答した。中川理事

長はまず奥羽教区が20年来毎年100%教区目標を達成していることに感謝を述べた。その上で、すでに年金局理事会の下に小委員会を設置して見直しの検討を開始しており4月までに成案を各教

区に送付して協議を求め、6月の次回理事会において最終決定したい旨を述べた。

「東日本大震災救援対策継続事業委員会報告の件」では、各教会や施設が財政状況の厳しい中で

順調に返済を進めていることが報告された。一方で「会員数が数名でいずれ返済ができなくなるかも知れない教会がある」という現実を知ってほしいという指摘があった。

「能登半島地震被災教会堂等再建支援委員会報告の件」では、輪島教会牧師館再建にあたって総工費3500万円あまりに対して希望額満額の約3200万円を支援することが決まったと報告された。

「教団関係学校承認に関する件」では、兵庫県姫路市の学校法人日ノ本学園を関係学校とすることが承認された。陪席の

森なお兵庫教区議長による理事長と学園長を兼任する橋崎良治氏は教団の信徒とのことである。「幹事任用に関する件」では道家紀一幹事を継続して任用することともに、退任する大三島孝幹事に代わって丸山和則教師を新たに任用することが承認された。これを受けて大三島幹事が退任の挨拶を行った。なお両幹事

とも任期は2026年4月1日より4年間。また「隠退教師を支える運動」の推進委員の交替に際して、新たな委員2名の選出が承認された。

2026年春季検定試験の合格者承認については、3月24日夜にオンラインで開催される臨時常議員会にて行うことが決まった。

(新報編集部報)

## 出版局

### 出版局の事業整理に向けて協議

一日目の議事終了後に出版局についての協議会が開催され雲然俊美議長が「教団出版局整理に向けて」と題して発題した。

議長は冒頭「出版局の債務超過は、経営責任主体が不明確であることが主要因である故の経営の失敗だ」とした。

またこれまでの流れとして、週報は2004年2月16日付、第33総会期の「教団機構改正・財政

検討委員会」の答申において既に出版局の財政状況の悪化が進んでいると指摘されていること、その後教団機構検討特設委員会や出版局将来検討委員会も経営改善について様々な答申を出していることを資料で示した。

その上で議長は今後のこととして債務状況の把握に努めており、事業が進行中であることから確定的な所に至ってはいない

一方で資金以外の具体的な事業仕分けについて「信徒の友」・「こころの友」は2026年度の発行をもって休刊。『教師の友』は現在発行済み

に代わり「こどももおとなもあなたといっしょにいろいろ」(略称「いろいろ」)のホームページを開設し、教案申し込みを受付中。「礼拝と音楽」は2026年4月発行予定の号で休刊。信仰図書や神学書は教団では発行しないが、委譲先を検討中。讃美歌は著作権管理・使用許可等の業務のみ行い、重版等の発行元については検討中。教科書等は

「他宗教との対話は大切だが教会会議の場所として借りるのは反対」、「10月に開催できるよう教会や、教区総会の開催実績がある公共施設の利用も検討してほしい等の発言が相次いだ。その一方で「変更のプレセツヤ、これまでの会場確保のための努力を踏まえたいか」と理解を示す意見も出た。採決の結果、場所と日程の変更は10月中の開催を定める教規16条③の執行停止を含め30名中24名の賛成で可決された。

ならびに総会準備委員会の設置と委員9名の選出、議案整理委員会の設置と委員3名の選出および教区選出議員数を370名とすることもそれぞれ賛成多数で可決された。

(新報編集部報)

## 教団総会

### 日程と場所の変更を承認

「第44回日本基督教団総会開催に関する件」では、今年10月27～29日に東京・池袋のホテルメトロポリタンにて予定されていた第44回総会の日程を2026年12月9～11日に、場所を杉並区の立正佼成会法輪閣大ホールに変更することが提案さ

れた。

網中彰子総幹事は「ホテルメトロポリタンの開催は費用がトータルで3600万円を超える。またホテル側の都合で日程の調整を求められた」と変更に至った経緯を説明。その上で「収容人数や3日間連続で開催でき

ることを勘案して代替会場を捜したところ候補に挙がった。先方に窮状を伝えて相談したところ、会場費無料で提供してくれることとなった。都心からのアクセスも良好で、ホテル開催と同様の議場を設けることができ

る必要がある」と述べた。

立正佼成会については、同宗連において日本基督教団やNCCともかわりを持っていくこと、世界宗教者平和会議でリーダーシップを取っており諸宗教の受け入れに慣れていること、さらに佼成会の庭野光代次

会長と網中総幹事が文化庁の宗教法人審議会でもに奉仕をしていることなどが説明された。

なお会場費は無料であるものの、音響機器のオアレレンジ等で500万円ほどの費用を見込んでいたという。

議場からは「キリスト教学校や教会幼稚園ではクリスマス行事の多い時期であり難しいのではな

(小林信人報)

(新報編集部報)

第 43 総会期 第 6 回  
常議員会

機構改定

# 教団総会議員 270 名の案を各教区総会に提示

「教団機構改定に関する件」では、教団総会議員数を約 400 名から約 270 名(約 3 分の 2)にするための基本方針と具体的な案が提示された。提案は、教職・信徒各 135 名の定員を教団に割り振る際に三役の選出用として定数を設けず、教数比のみで配分する内容であった。基本方針

原案では沖繩教区の議

## ▼教区教育担当者会・教育委員会

# 教会とキリスト教学校が共に歩むために

1月19・20日「教区教育担当者会」が開催された。初日は仙台東六番丁教会を会場に、横山ゆずり委員長の導きにより開会礼拝をささげ、新田恭平牧師(猪苗代教会、川桁伝道所、会津坂下教会、会津本郷教会、会津

北嶺高等学校聖書科・公民科講師、東北教区宣教部委員長、青年プロگرام小委員会委員長)より「We Shall Overcome」教会と学校の架け橋として」と題して発題がなされた。

新田牧師は自身のこれまでの現状を指摘し、「教会はまだまだこれから希望がある」ことを示し



東北学院大学泉キャンパス音楽堂(礼拝堂)

た。しかし、同時に受ける皿となる教会が急速に弱体化していることも指摘され、だからこそ、キリスト教学校と共に歩むことが出来るように、教会での生徒たちの活躍の場を備えて欲しいと要望した。

質疑応答ののち、各教区教育担当者から教区報告がなされ、さらに4分団に分かれて発題をもとに話し合い、各地域の様子や課題を共有した。その後は夕食を取り、全体会を行って一日目は終了した。

二日目は東北学院榴ヶ岡高等学校を訪問した。西間木順宗主任の案内で全生徒、教職員千人弱が一同に会する朝の礼拝に出席。河本和文校長の挨拶を受け、再び西間木

議であることを表すという原則が崩れる」などの意見が述べられた。採決により賛成 8 名で否決された。

案 2 は、原案ではできないだけ置かないとされる推薦議員枠を「常議員会の議決により若十名を加えることができる」とする修正案を提出した。これにより、規則を変えずに運用で小規模教区への配慮を行う道を探ったが、「運用が曖昧になり混乱を招く。公平性が確

保できない」、「必要なのは配慮ではなく同等の権利」などの反対意見があった。賛成 13 名で否決された。

原案が採決により賛成 26 名で承認された。

この総会議員数削減案は 2026 年度の各教区総会に議論・意見聴取のために提示され、その結果を踏まえて 2026 年 7 月の常議員会で正案として決定される運びとなる。

(長倉 基報)

## ▼教師検定委員会

# 面接試験の日程見直しを決定

1月23日、今総会期第5回目の教師検定委員会が開催された。今回は2026年度春季教師検定受験者の受験資格に関する件が審議され、補教師22名を認定、正教師11名を確認し、提出課題である説教・釈義、神学論文等の採点を行った。また、筆記試験の問題作成、受験者への送付書類の確認、試験当日の役割分担、タイムスケジュールなどを打ち合わせた。教師検定規則第3条6号対象

今年度の委員会は、2025年秋季教師検定試験に関する意見書や要望書等いくつかの教区や神学校から受けており、これらに対する返答書の文面について一つひとつ精査した。文面を整えたものから返信することとなった。さらに、これらの意見や要望を重く受け止め、これまで筆記試験当日のうちに採点、合格判定、そして受験者へのコメントまで整えなければならなかった日程を深められるような内容を目指すこととした。

今回の委員会では、2025年秋季教師検定試験に関する意見書や要望書等いくつかの教区や神学校から受けており、これらに対する返答書の文面について一つひとつ精査した。文面を整えたものから返信することとなった。さらに、これらの意見や要望を重く受け止め、これまで筆記試験当日のうちに採点、合格判定、そして受験者へのコメントまで整えなければならなかった日程を深められるような内容を目指すこととした。

今年度の委員会は、2025年秋季教師検定試験に関する意見書や要望書等いくつかの教区や神学校から受けており、これらに対する返答書の文面について一つひとつ精査した。文面を整えたものから返信することとなった。さらに、これらの意見や要望を重く受け止め、これまで筆記試験当日のうちに採点、合格判定、そして受験者へのコメントまで整えなければならなかった日程を深められるような内容を目指すこととした。

(川島直道報)

宗主任の案内で校内を見学した。その後担当する高校1年生の聖書科の授業を見学し、会議室に戻り、学校紹介・懇談の時間を持った。大学の泉キャンパス移転に伴い、今年度、榴ヶ岡高校はその大学跡地に移転した。加えて入試前で大変な時期の受け入れに感謝を伝え、祈りをもって二日間のを閉じた。各教区支区からの参加者は全体で 28 名だった。

(堀川 樹報)

備えて、継続していくこととした。

会計面では2025年度会計中間報告を受け、合わせて台湾ユースミッション会計への繰り入れ、青年大会2026への繰り入れを今年度末に行うことも可決し、台湾ユースミッションの働きのために、青年大会のために継続して備えることとした。また、2026年度委員会予算が168万円で可決された。さらに第65回キリスト教教育主事認定試験(3/13)のための準備を重ねた。十数年ぶりに受験者が与えられたことを感謝し、担当者4名で引き続き準備を進めることを確認した。

次期の教区青年担当者会(第16回)に関しては、例年通り9月開催を予定する。テーマ、また対面、オンラインでの開催方法などは継続審議とし、次回委員会で整えることとした。

(堀川 樹報)

《教育委員会》

第4回教育委員会が、2月9日にオンラインにて開催された。

報告事項では事務局より「みんなで生きよう」クイズ・プレゼント(クリアファイル)の応募者が117名で、例年より少なかったこと、また2025年度をもって休刊となった『季刊教師の友』に代わり、2026

### 東日本大震災関連記念行事日程

《奥羽教区》

東日本大震災 15 年を覚えての礼拝

◎日時 3月8日(日)14:30~15:30  
◎会場 新生釜石教会  
◎メッセージ 柳谷雄介牧師(新生釜石教会)  
※ YouTube でも配信。詳細は教区ホームページ参照。https://ucc-ou.localinfo.jp/posts/58461866

《東北教区》

東日本大震災 15 年記念礼拝

◎日時 3月11日(水)14:30~  
◎会場 東北教区センター・エマオ 3 階大会議室  
◎メッセージ 野田沢牧師(学生キリスト教友愛会<SCF>総主事)  
※ YouTube 配信も予定。

### 「カルト問題相談会」

◎日時 2026年3月26日(木) 午後1時~3時  
◎会場 日本キリスト教会館3階会議室(東京都新宿区西早稲田2-3-18)

▼予算決算・監査合同委員会▲

出版局に1800万円の追加貸付、補正予算を提案

第5回予算決算・監査合同委員会が、1月23日教団3階会議室で行われた。はじめに、各幹事から報告が行われた。網中彰子総幹事より、11月下旬に台湾基督教長老教会との協議会(台北)に出席、出版局については労働組合との話し合いを継続、希望退職者を募っていることが報告された。

次に、道家紀一総務幹事より以下の報告があった。①春季教師検定試験の受験者は補教師22名に正教師11名、②西中国教区から発議された教師の戒規が適用される見通し、③能登半島地震支援金は総額1億6000万円が捧げられた、④宣教研究所委員会が「宣教の未来Ⅲ」を発行予定、⑤教師養成制度検討委員会が「教憲に基づく教師論」と「教規から導き出される教師論」の合本を作成中である。

続いて大三島義孝財務幹事より出版局の整理について、現在中小企業診断士(ライパートナー)の指導の下、工程表に則り3月を目途に進めていることが報告された。

その後、25年度の執行状況と26年度予算案を扱った。25年度の経常会計は概ね予算通りの進捗状況であるが、収益事業は出版局の未払い消費税と固定資産税の立替等で1700万円の赤字の見通し。また、25年度の予算案については出版局への当面の運転資金投入に鑑み、1800万円の貸付のために補正予算を組む必要があることを確認し、承認した。次に、教区負担金算出に関する件を扱った。教会・伝道所が教区から受けている補助金は、①教師謝儀互助等の教師の生活を支えるための補助、②教会の宣

2・11メッセージ

日本基督教団が2月11日を「信教の自由を守る日」としたのは、60年前、この日が「建国記念の日」とされたからです。戦前は「紀元節」と呼ばれ、神話に基づき初代天皇とされる神武天皇が即位したというこの日を日本の始まりとし、神国日本を祝う祝日としてきました。「神聖にして侵すべからず」(大日本帝国憲法第3条)と定められた天皇を頂点とすることで、日本の精神的な柱を作ろうとしたのでした。戦後、紀元節は廃止されましたが、20年を経て、戦前回帰の動きから、この日は「建国記念の日」と定められました。この情勢に教団は危機を感じ、「信教の自由を守る日」としたのです。

教団が反対したのは、その制が現行憲法の理念に反するからですが、同時に、戦前・戦中の歴史への反省がありません。明治以来、政府は国家神道と結びつけた天皇崇拜をもって国民を統制し、治安維持法、宗教団体法により国策に合わない思想また宗教を弾圧し、思想信条の自由を奪ってきました。国家への忠誠を求めて軍国主義の道を突き進み、アジア諸国を侵略するに至ります。

2026年2月11日

第43総会期日本基督教団社会委員

秋間文字

事務局よりお知らせ

『季刊 教師の友』に代わり、新しいホームページ「こどももおとなもあなたもいっしょに いろいろ」(略称「いろいろ」)が始まります。教案をはじめ、教会教育に関するさまざまな情報を発信します。ホームページをご覧になるみなさまからいただいた情報を共有し、交流の場となることも願い、2026年2月10日に開設しました。

◎教案に関する記事は有料ですが、それ以外の記事は原則無料です。  
◎教案の年間購読料は以下のとおりです。  
◎教会で購読をお申し込みいただければ、所属する教会員のどなたでもご覧いただけます。お申し込みを受けて入金確認後に、パスワードを送ります。  
◎もちろん、個人での購読も大歓迎です。

- ①教案をホームページ上で見る場合  
本体価格3,000円(税込3,300円) / 年
  - ②①に加え、教案を印刷した冊子の郵送ご希望の場合  
本体価格3,600円(税込3,960円) / 年
- ※4～6月分の教案を収録した最初の冊子は、2月中旬にお届けします。

教案については、2026年3月10日までにお申し込みの場合、最初の1年間、先行申し込み割引があります。

- ①教案をホームページ上で見る場合  
年間購読料 3,000円(税込3,300円) のところ→2,700円(税込2,970円)
- ②①に加え、教案を印刷した冊子の郵送ご希望の場合  
年間購読料 3,600円(税込3,960円) のところ→3,000円(税込3,300円)



事務局報

中野偕子(隠退教師)

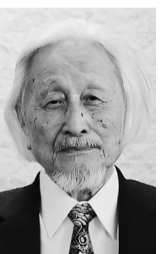


24年11月3日逝去、90歳。大阪府生まれ。59年日本聖書神学校卒業。62年より美術、久居、秋南教会を牧会し、99年隠退。遺族は子・中野真さん、土戸 清(無任所教師)

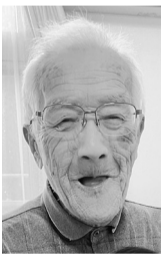


25年11月16日逝去、92歳

石川献之助(隠退教師)



25年12月7日逝去、98歳。茨城県生まれ。51年日本基督教団専門学校卒業、同年より下谷教会、昭和町伝道所(55年より昭島教会)を牧会し、21年隠退。遺族は子・石川勇さん、五月女昇一郎(隠退教師)



25年12月3日逝去、85歳。京都府生まれ。65年同志社大学大学院修了、同年より高石、廿日市教会を牧会し、西中国教区に務め、小野田教会を経て16年隠退。遺族は子・河野勝さん。



25年12月18日逝去、91歳。東京都生まれ。59年東京神学大学院

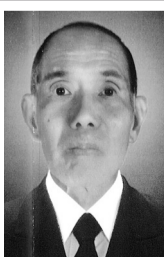
修了、60年より西尾、高岡、名古屋桜山教会を牧会し、99年隠退。遺族は妻・五月女せつ子さん。



美作落合、竹岡教会を牧会し、07年隠退。遺族は夫・三川茂さん、上野清次郎(隠退教師)



25年12月27日逝去、89歳。関東州旅順市生まれ。62年東京神学大学院修了、同年より下松、岩国、萩、福山延広、西条栄光、鳴子教会を牧会し、08年隠退。遺族は子・宮本約さん、吉川 勇(無任所教師)



26年1月9日逝去、76歳。愛知県生まれ。77年東京神学大学院修了、78年より御器所、豊山、木更津、駒込教会を牧会し、25年隠退。遺族は子・村田玄さん。

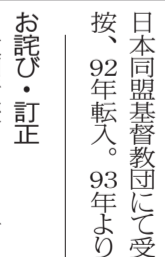


25年12月28日逝去、85歳。神奈川県生まれ。79年日本聖書神学校卒業、80年より遠野、中村、丸岡、丹陽教会を牧会。遺族は妻・吉川治子さん。



教師異動  
聖ヶ丘 就(担) 棚村恵子  
畦野 辞(代) 橋本いずみ  
糸満 就(担) 福井博文  
横濱上原 辞(主) 平田一吉  
茅ヶ崎堤 辞(主) 三原信恵  
" 辞(担) 細井宏一  
" 就(主) 細井宏一  
豊島岡 辞(担) 江口公一

25年5月30日逝去、92歳。群馬県生まれ。70年日本同盟基督教団にて受按、92年転入。93年より



お詫び・訂正  
教団新報5042号3面「教団HP動画配信欄、齋藤実牧師「旭川星光教会」を「旭川星光伝道所、美馬牛福音伝道所」に、お詫びして訂正いたします。

伝道報告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」 ルカによる福音書第10章17節～20節



伝道推進室より応援した教会・伝道所

新たな歩み 独唱からハーモニーへ

田辺教会牧師、南紀の台教会・くまの伝道所 (代務者) 南澤 望

南紀の台教会、くまの伝道所のためにいつも祈りにお覚えくださいます、心より感謝いたします。南紀の台教会、くまの伝道所ともに無牧師の状態が長く続いております。現任陪餐会員も南紀の台が7名、くまのが4名、経済的にも主任教師をお呼びすることができない状況です。

くまの伝道所の会堂は70年近く教団の特別財産として登記していただき、伝道の拠点としてキリストの福音を宣べ伝えて参りましたが、4名の教会員も平均年齢が85歳を越えました。会堂を維持していくことがとても難しい状態となりました。それ

も厳しい状況となりました。その様な中、南部伝道所の会堂が老朽化のために礼拝を行うことが困難なことが明らかになりました。そうして南紀の台教会も含め3つの教会・伝道所で合同礼拝を行うこととなりま

したが、コロナ禍で南紀の台教会の会堂は狭く、主日礼拝はこの6年間、田辺教会会堂で行われてきました。ただクリスマスイブ燭火礼拝は南紀の台教会で行っております。

今後の教会のことが合同の長老会で数度にわたり話し合われ、くまの伝道所の状況や和歌山県内の教会の状況に鑑み、田辺、南紀の台、南部が合併し、新たな歩みを始めようというこ

とになりました。昨年11月に総会を開催し、合併が可決され、新たな教会の名称を「和歌山南教会」としてスタートすることとなりました。

無牧師やコロナ禍という極限状況におかれた教会でありましたが、主によって新たな歩みを始める機会が与えられました。この新たな歩み、ある教会員が「独唱からハーモニーへ」と表現されていました。これから様々な問題が起こってくることは間違いありません。けれども、キリストの豊かな恵みと共に喜び、共に祈り、すべてのことに感謝して歩んで参ります。

くまの伝道所、南紀の台教会とも引き続きご加勢ください。



上から、南紀の台教会外観・礼拝堂

くまの伝道所

参ります。

寄せ場からの声

《山谷・越冬闘争 2025~26》

「再開発反対！ センターは野宿者排除をやめよ！」

行政の窓口が閉まり仕事の紹介も生活相談もストップする年末・年始の約1週間、日雇い・野宿者の命を守り、仲間同士協力し合って生き抜くために越冬闘争の集中的な取り組みが行なわれた。例年通り城北労働福祉センター前の路上に火を焚き、各地から寄せられた貴重な米と野菜に他の食材を買い足してみんなで食事を準備し、みんなで食べる。センター前と上野公園に出張しての恒例の「団結餅つき」も皆の楽しみに。その間に全国から送られた衣類の分配を行なう。

センターは東京都・山谷対策の優先機関。山谷労働者のための施設であるにも拘らず仕事や医療、給食、宿泊などがより必要な野宿者に対しては様々な条件を付けて利用者カードを発行しない。それだけでなくセンターの補修工事を口実に、敷地内にテントを張って生活していた野宿者たちに退去を命じた。

このようにセンターは何かにつけて野宿者の追い出しを図っている。山谷労働者福祉会館を拠点に日雇い・野宿者と共闘を求める支援者たちは、当事者らと共に抗議しつつセンター及び東京都産業労働局との交渉を重ねてきた。その過程で一人の仲間が不当に摘発、逮捕されるといふ許し難い弾圧も起きた。

山谷のもう一つの現状は、街全体が再開発の波にのまれ、野宿者だけでなく日雇い労働者への排除の圧力も高まっていることだ。労働者が泊まるドヤ(簡易宿泊所)がほとんど潰され、跡地に見上げるような高層マンションが次々と建ち始めて、とても寄せ場とは思えない光景だ。

山谷・越冬闘争は、日雇い・野宿者がこのような排除の圧力に抗し、寄せ場らしい生活の場を取り戻すための協働の力を蓄える場だ。1月11日には1980年代、山谷に巣食っていた右翼暴力団との闘いの中で殺された「佐藤さん・山岡さん」を弔念する「テモ」が玉姫公園で行われ「山谷にマンション要らない」「野宿者排除をやめろ」等の声を上げながら山谷を一周した。「寄せ場解体」の目論見に対する闘いは、年間を通じて続くことになる。

(松井修子報/城西教会員・山谷労働者福祉会館活動委員会)



飯田 和子さん

心と心を繋ぐミッション



阿佐谷東教会員、IIDA MUSIC SPACE 和主宰、能代ふるさとPR大使

1月15日に母を天に送った。宝塚歌劇団の男役であだ名はアニキ。面倒見の良い人だった。予約していた外來に行ったら「体力が落ちているので入院してほしい」とのこと。そのまま入院。退院したら何をするかと楽しく共に夕食をした翌日病院から呼び出し。着くと既にICU。7分心肺停止後蘇生したがこれ以上の治療は見込めないと。一人っ子の私は3年前に送った父同様母にも延命治療は不要との意思確認をしていたのでそのまま見守り85年を生き

切った。藤盛勇紀牧師が葬儀をしてくださり、OGが「すみれの花咲く頃」を歌う中で出棺し、私の希望で皆の拍手で旅立った。富

暗転でも好転

「舞台人は足がもげても舞台に立つの」と小学生の私に言ったことがある。ショーマスト・ゴオンということだ。一度始めたらやりきる。緞帳がゆっくり降りるように人生の幕を下ろすのかと思ったら、暗転の間に行ってしまったような素早さ。しかし暗転は、演者は次の場面の備えをし、観客は次の場面をワクワクしながら待つ時でもある。闇から光へ。私たちは神さまに心や体を守られているからいつも平安の中にいる。(教団総幹事 網中彰子)